



鮭といえば、1年中スーパーで見かける馴染み深い魚ですが、白鮭、紅鮭、銀鮭、アトニツギサーモン、トラウトサーモンなど、様々な種類があります。

日本の川に遡上するのは白鮭だけで、秋にとれる白鮭を「秋鮭」、春から初夏にかけてとれる若い白鮭を「時知らず」や「時鮭」と呼んでいます。

「秋鮭」は、2~8年間回遊し、秋(9~12月)に産卵のために故郷の川に戻る鮭で、脂が少なくオスには白子、メスには卵(筋子)を持つのが特徴です。

秋の味覚をゆっくりと楽しみたいものですね。

DUCTILE TIMES編集部

新しい老朽度評価方法で更新計画を策定してみませんか？

水道管路の老朽化が問題となっている近年、優先順位をつけた計画的な管路更新が求められています。

弊社では、①老朽度②HR(自然災害への耐性)③水理・水質④重要度の4つの側面から評価し、水道事業体様の事情・方針を反映するとともに、AIを用いて総合評価して、最適な更新計画を策定する「**総合管路管理ソリューション**」の開発を進めています。

その4つの評価項目のうち「老朽

度」について、東京大学と共同研究を行い、長年蓄積してきた約6,000件の腐食調査データ及び埋設環境データをもとに、機械学習を行い、老朽度評価モデルを構築しました。その結果、管路ごとの予測漏水件数(件/年/km)の算出や、現状の漏水危険度、将来の漏水危険度マップの提示、管路ごとの更新優先順位の提示が可能となりました。

従来の老朽度評価よりも高精度に老朽度を予測することが可能で、効率的かつ経済的な水道管路の更新計画立案に貢献します。

新しい老朽度評価に必要なのは管路データ(管路の埋設場所、埋設年など)のみで、再度データをまとめる必要はありません。ご興味ございましたら、弊社上下水道営業部までお気軽にお問合せください。

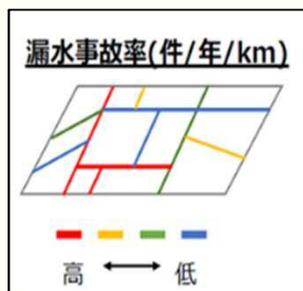


新たな老朽度評価方法による管路診断を実施 From 茨城県企業局様

茨城県企業局様では、現在管路更新の計画策定を検討中です。そこでこの度、局で管理する上水・工業用水の導・送水管路約1,340kmの余寿命診断の手法として、弊社の「新たな老朽度評価方法による管路診断」を実施しました。

複数の基準年度で管路老朽化度評価を実施し、検討結果報告書を10月上旬に提出しました。

ご担当者様からは「参考になる検討結果を作成いただいた。今後の計画策定に役立てていきたい。」(施設課矢口様)との評価をいただいております。



〈 実際の検討結果報告書 〉

GX形メタルシート仕切弁を採用された声 From 大阪府交野市様

交野市の水道水のうち8割は「交野の地面の下を流れる地下水から作られた水」です。市内には16の井戸があり、地下200~300mの深さから取水しています。平成24年には水処理のための薬品を低減できる生物処理方法を導入した星の里浄水場をスタートさせ、現在、約7万8千人の市民の皆様へ水を届けています。

GX形メタルシート仕切弁を導入した管路は、井戸と浄水場を結ぶ導水管に設置しました。耐震継手一体化構造はもとより鋼構造の弁箱と柔構造の弁体の組合せによる、外力負荷に強いメタルシートの耐久性とC-Protect塗装による長寿命を期待して導入を決めました。

これからも将来にわたって交野の山の恵みである美味しい地下水を住民の皆様へ届けるために、引き続き安心・安全な水道を供給していきます。



〈 施工現場の様子 〉